

各関係機関の長 様  
病害虫防除員 様

滋賀県病害虫防除所長

病害虫発生予報第 3 号について

このことについて、以下のとおり発表したので送付します。

平成28年病害虫発生予報第 3 号

平成 28 年 (2016 年) 5 月 24 日  
滋 賀 県

【予報概要】

大阪管区气象台発表では、向こう 1 か月の気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多く、日照時間は県北部では平年並、県南部では平年並または少ない見込み。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	葉いもち	平年並	平年並	果樹全般	カメムシ類	—	多
	ニカメイガ(I)	やや早	平年並		アブラムシ類	—	やや多
	イネドロオイムシ	平年並	平年並		ハマキムシ類	やや早	多
	イネミズゾウムシ	平年並	平年並				
野菜全般	うどんこ病	平年並	平年並	ナシ	黒星病	—	平年並
	アブラムシ類	—	平年並		黒斑病	—	平年並
	ハダニ類	—	平年並		赤星病	—	平年並
	ヨトウガ	平年並	平年並		ナシヒメシンクイ	早	平年並
キュウリ	べと病	平年並	平年並	ブドウ	灰色かび病	やや早	平年並
ナス科野菜	疫病	やや早	平年並		うどんこ病	やや早	平年並
	ニジュウヤホシテントウ類	平年並	平年並		クワコナカイガラムシ	やや早	平年並
アブラナ科野菜	カブラヤガ	やや早	やや多	カキ	フタテンヒメヨコバイ	やや早	平年並
	モンシロチョウ	早	やや多		カキクダアザミウマ	やや早	平年並
	コナガ	平年並	平年並		カキノヘタムシガ	やや早	やや多
				チャ	マイマイガ	平年並	平年並
					カンザワハダニ	—	やや少
					クワシロカイガラムシ(I)	早	平年並
					チャトゲコナジラミ(I)	早	やや少

A. イネの病害虫

1. 葉いもち

予報内容 発生時期：平年並

発生量：平年並

予報の根拠

- (1) 余剰苗での発生を認めた。
- (2) 育苗箱施薬による防除が普及している。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多く、日照時間は県北部では平年並、県南部では平年並または少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 余剰苗は直ちに除去する。

- (2) いもち病に有効な長期持続型の薬剤を育苗箱に施用、または移植時に側条施用したほ場では、葉いもち防除の必要性は低い。
- (3) 発生を認めたら直ちに薬剤を散布する。特に、多肥田や晩植田、「コシヒカリ」・「キヌヒカリ」・「秋の詩」・「滋賀羽二重糯」では注意する。ただし、耐性菌を生じやすいので、穂いもちの防除も考慮して同一グループ薬剤の連用を避ける。

## 2. ニカメイガ第1世代

予報内容 発生時期：やや早  
発生量：平年並

予報の根拠

- (1) フェロモントラップでの誘殺時期は、やや早い。
- (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
- (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
- (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) ニカメイガに有効な薬剤を育苗箱施用、または側条施肥田植機で薬剤施用したほ場では、第1世代幼虫の本田防除の必要性は低い。
- (2) 第1世代幼虫の防除適期は、越冬世代成虫の発ガ最盛期（本年予想：彦根アメダス付近で5月21日）の10～15日後である。

## 3. イネドロオウムシ（イネクビホソハムシ）

予報内容 発生時期：平年並  
発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生を認めていない。
- (2) 前年の発生量は平年並。
- (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
- (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多く、日照時間は県北部では平年並、県南部では平年並または少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) イネドロオウムシに有効な薬剤を育苗箱施用、または側条施肥田植機で薬剤施用したほ場では、防除の必要性は低い。
- (2) 薬剤による防除の目安は、幼虫加害初期（6月中旬～下旬）に被害葉率20%以上、または被害株率50%以上とし、防除は幼虫加害初期（6月中旬～下旬）に実施する。

## 4. イネミズゾウムシ

予報内容 発生時期：平年並  
発生量：平年並

予報の根拠

- (1) 本田への飛び込み時期は平年並。
- (2) 前年の発生量は、やや多かった。
- (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。

防除上注意すべき事項

- (1) 根腐れを生じやすい水田では幼虫による被害が出やすいので、深水を避け、適正な水管理を行い、根を健全に保つ。
- (2) イネミズゾウムシに有効な薬剤を育苗箱施用、または側条施肥田植機で薬剤施用したほ場では、本田防除の必要性は低い。

- (3) 5月中下旬に移植した場合は、成虫の飛込最盛期に稲体が小さく、被害が大きくなりやすいので注意する。
- (4) 薬剤による防除の目安は、成虫本田飛込最盛期（5月下旬）に株当たり成虫数が0.5頭以上、または被害株率90%以上とし、多発しているところを中心に薬剤を散布する。

## B. 野菜（露地）の病害虫

### 1. 野菜全般：うどんこ病

予報内容 発生時期：平年並

発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生は認めていない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多く、日照時間は県北部では平年並、県南部では平年並または少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

### 2. 野菜全般：アブラムシ類

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) 黄色水盤での誘殺数は、やや少ない。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

### 3. 野菜全般：ハダニ類

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期から薬剤を散布する。
- (2) 薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

### 4. 野菜全般：ヨトウガ（ヨトウムシ）

予報内容 発生時期：平年並

発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生時期は平年並。
- (2) ほ場での発生量は平年並。
- (3) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。
- (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の若齢期に薬剤を散布する。

## 5. キュウリ：べと病

予報内容 発生時期：平年並  
発生量：平年並

### 予報の根拠

- (1) ほ場での発生を認めていない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多く、日照時間は県北部では平年並、県南部では平年並または少ない見込み。

### 防除上注意すべき事項

- (1) 排水をよくし、多湿を避ける。
- (2) 発病を認めたら早めに薬剤を散布する。

## 6. ナス科野菜：疫病

予報内容 発生時期：やや早  
発生量：平年並

### 予報の根拠

- (1) ほ場での発生を認めた。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

### 防除上注意すべき事項

- (1) 発病茎葉および果実は早期に除去する。
- (2) 排水をよくする。
- (3) 発病前から薬剤を散布する。特に降雨前後の散布に重点をおく。

## 7. ナス科野菜：ニジュウヤホシテントウ類

予報内容 発生時期：平年並  
発生量：平年並

### 予報の根拠

- (1) ほ場での発生時期は平年並。
- (2) ほ場での発生量は平年並。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

### 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に薬剤を散布する。

## 8. アブラナ科野菜：カブラヤガ（ネキリムシ）

予報内容 発生時期：やや早  
発生量：やや多

### 予報の根拠

- (1) フェロモントラップでの誘殺時期は、やや早い。
- (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。
- (3) 前年秋期の発生量は平年並。

### 防除上注意すべき事項

- (1) 発生後に被害を防ぐことは難しいので、は種または定植時に薬剤を施用する。

## 9. アブラナ科野菜：モンシロチョウ（アオムシ）

予報内容 発生時期：早  
発生量：やや多

### 予報の根拠

- (1) ほ場での発生時期は早い。
- (2) ほ場での発生量は、やや多い。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の若齢期に薬剤を散布する。

## 10. アブラナ科野菜：コナガ

予報内容 発生時期：平年並

発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生時期は平年並。
- (2) ほ場での発生量は平年並。
- (3) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
- (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

## C. 果樹の病害虫

### 1. 果樹全般：カメムシ類

予報内容 発生量：多

予報の根拠

- (1) フェロモントラップでの誘殺時期は早い。
- (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。
- (3) 越冬虫数は平年並。
- (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 注意報第2号を参照のこと。

### 2. 果樹全般：アブラムシ類

予報内容 発生量：やや多

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は、やや多い。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に薬剤を散布する。

### 3. 果樹全般：ハマキムシ類

予報内容 発生時期：やや早

発生量：多

予報の根拠

- (1) フェロモントラップでの誘殺時期は、やや早い。
- (2) フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキの誘殺数は多い。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

#### 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫発生初期に薬剤を散布する。

#### 4. ナシ：黒星病

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 「幸水」は発病しやすい。
- (2) 耐性菌が生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

#### 5. ナシ：黒斑病

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生を認めた。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 「二十世紀」、「南水」は発病しやすい。
- (2) 耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

#### 6. ナシ：赤星病

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 感染後は薬剤防除の効果が劣るので、降雨前の予防散布に努める。

#### 7. ナシ：ナシヒメシンクイ

予報内容 発生時期：早

発生量：平年並

予報の根拠

- (1) フェロモントラップでの誘殺時期は早い。
- (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 被害枝は処分する。
- (2) 6月中旬ごろに薬剤を散布する。

#### 8. ブドウ：灰色かび病

予報内容 発生時期：やや早

発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ブドウの生育は、やや早い。
- (2) 前年の発生量は、やや少なかった。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

**防除上注意すべき事項**

- (1) 果房に付着した花カスは伝染源となるので、花カス落としを徹底する。
- (2) 通風、採光を図る。
- (3) 開花直前または開花直後に薬剤を散布する。
- (4) 耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

**9. ブドウ：うどんこ病**

予報内容 発生時期：やや早  
発生量：平年並

**予報の根拠**

- (1) ブドウの生育は、やや早い。
- (2) 前年の発生量は平年並。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

**防除上注意すべき事項**

- (1) 欧州系品種は発病しやすい。
- (2) ハウス栽培や通風の悪い園で発病が多くなる。

**10. ブドウ：クワコナカイガラムシ**

予報内容 発生時期：やや早  
発生量：平年並

**予報の根拠**

- (1) ほ場での発生を認めていない。
- (2) ブドウの生育は、やや早い。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

**防除上注意すべき事項**

- (1) ろう物質を十分に分泌していない幼虫ふ化期(5月中下旬頃)が防除適期にあたる。

**11. ブドウ：フタテンヒメヨコバイ**

予報内容 発生時期：やや早  
発生量：平年並

**予報の根拠**

- (1) ほ場での発生を認めていない。
- (2) ブドウの生育は、やや早い。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

**防除上注意すべき事項**

- (1) 草刈り、芽かき、誘引等により、通風と採光を良くする。

**12. カキ：カキクダアザミウマ**

予報内容 発生時期：やや早  
発生量：平年並

**予報の根拠**

- (1) ほ場での発生を認めていない。
- (2) カキの生育は、やや早い。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めたら薬剤を散布する。
- (2) 被害葉は処分する。

### 13. カキ：カキノヘタムシガ

予報内容 発生時期：やや早  
発生量：やや多

予報の根拠

- (1) ほ場での発生を認めた。
- (2) カキの生育は、やや早い。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 6月上旬～中旬が防除適期にあたる。

### 14. カキ：マイマイガ

予報内容 発生時期：平年並  
発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生時期は平年並。
- (2) ほ場での発生量は平年並。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部では平年並、県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めたら薬剤散布もしくは捕殺を行う。

## D. チャの病害虫

### 1. カンザワハダニ

予報内容 発生量：やや少

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は、やや少ない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 多発園では、使用時期（収穫前日数）に注意して薬剤を散布する。

### 2. クワシロカイガラムシ（第1世代幼虫）

予報内容 発生時期：早  
発生量：平年並

予報の根拠

- (1) 越冬世代成虫の寄生株率は平年並。
- (2) 幼虫ふ化最盛期の有効積算温度（287日度、起算日1月1日、発育零点10.5℃）による予測日は早い。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県南部では平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 防除は、ふ化～定着直後の幼虫を対象とし、50%ふ化卵塊が過半数に達する時期（ふ化最盛期）の約1～3日後が防除適期となる。
- (2) 多発園では、中切りや深刈り更新と併用して防除を行うと効果的である。
- (3) 使用時期（収穫前日数）に注意し、薬剤を散布する。

### 3. チャトゲコナジラミ（第1世代幼虫）

予報内容 発生時期：早  
発生量：やや少

#### 予報の根拠

- (1) 越冬世代成虫の発生時期は早い。
- (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は、やや少ない。
- (3) 調査茶園における幼虫の発生量は、やや少ない。
- (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県南部では平年並または多い見込み。

#### 防除上注意すべき事項

- (1) 越冬世代成虫の発生ピークから15日程度経過し、成虫の発生がほとんど見られなくなった時期が若齢幼虫の発生期であり、薬剤による防除適期とされる。ただし、茶園により差があるので、若齢幼虫の寄生状況を事前に確認する。
- (2) 多発園では、中切りや深刈り更新を併用して防除を行うと効果的である。
- (3) 使用時期（収穫前日数）に注意し、すそ部や葉層内の葉裏に薬剤がよくかかるように防除する。

防除対策（耕種的防除や薬剤防除など）については、滋賀県農作物病害虫雑草防除基準を参照してください。

#### 病害虫防除に関する情報

**滋賀県病害虫防除所** 病害虫の発生予察などの関連情報  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/>

**滋賀県農作物病害虫雑草防除基準**  
滋賀県における病害虫や雑草の適切かつ安全な防除および危被害防止についての基準  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/kodawari/noyakuhiryo.html>

滋賀県病害虫防除所  
〒521-1301 滋賀県近江八幡市安土町大中5 1 6  
TEL 0748-46-6160・4926  
FAX 0748-46-5559  
Email GC70@pref.shiga.lg.jp  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/>

## 農薬を扱うみなさまへ

農薬取締法や滋賀県では、農薬を販売する者・使用する者が守らなければならない事項、守っていただきたい事項を次のように定めています。これらのことを守り、農薬の適正な流通、安全・適正な使用に努めましょう。

下線部は、農薬取締法・関係法令で定められ、農薬を扱うものが守るべき事項です。

下線部を守らないと、農薬取締法違反で罰せられます。

### 1. 販売に関すること

- ① 農薬登録番号等が適正に表示された農薬および特定農薬以外の農薬を販売しないこと。
- ② 販売禁止農薬を販売しないこと。
- ③ 農薬の効果等に関して、虚偽の宣伝をして販売しないこと。
- ④ 無登録の農薬について、農薬登録を受けていると誤認させるような宣伝をしないこと。
- ⑤ 販売者は、取り扱う全ての農薬について、種類別に仕入数量と譲渡数量（水質汚濁性農薬については譲渡先別譲渡数量）を帳簿に正確に記載し、3年間保存すること。
  - ・ 農薬単独の帳簿で、日別に記載し、在庫管理ができる帳簿にしてください。
  - ・ コンピューターで管理している場合は、過去の実績をプリントアウトしておいてください。
- ⑥ 農薬登録がされていないいわゆる非農耕地専用除草剤には、容器又は包装に農薬として使用できない旨を表示すること。また、非農耕地専用除草剤の販売者は、販売所ごとに、公衆の見やすい場所に、非農耕地専用除草剤を農薬として使用できない旨を表示すること。
- ⑦ 農薬は他の品目（特に食品）と混在して陳列しないでください。
- ⑧ 農薬は住居（生活空間）で保管しないでください。
- ⑨ 農薬はいつも目の届く場所に陳列してください。
- ⑩ 盗難防止対策をとってください。
- ⑪ 最終有効年月を過ぎた農薬は販売しないようにしましょう。
- ⑫ 毒物劇物を販売している方は、毒物及び劇物取締法の規定を遵守してください。

### 2. 使用に関すること

- ① 農薬登録番号等が適正に表示された農薬および特定農薬以外の農薬を使用しないこと。
- ② 販売禁止農薬を使用しないこと。
- ③ 食用農作物等に農薬を使用するときは、次に掲げる基準を遵守すること。
  - ・ ラベルに記載されている農作物のみに当該農薬を使用すること。
  - ・ 使用量  
面積当たりの規定量を超えて農薬散布をしない。
  - ・ 希釈倍率  
規定された希釈倍率の最低限度を下回る希釈倍数での農薬散布をしない。
  - ・ 使用時期を厳守すること。  
規定された使用時期以外に農薬散布をしない。
  - ・ 各有効成分ごとの総使用回数を超えて使用しないこと。  
（種苗を用いる場合は、種苗に表示のある有効成分ごとの農薬の使用回数を勘案する必要がある）
  - ・ 最終有効年月を過ぎた農薬を使用しないようにしてください。
- ④ 次に掲げる事項を帳簿に記載するようにしてください。  
農薬を使用した年月日・場所・農作物等・農薬の種類又は名称・使用量・希釈倍数
- ⑤ ゴルフ場において農薬を使用しようとするときは、農薬使用計画書を農林水産大臣に提出すること。
- ⑥ 農作物等・人畜・水産動植物に害を及ぼさないようにすること。
- ⑦ 農作物等および土壌、水質に汚染が生じ、かつ、その汚染に係る農作物等の利用が原因となって人畜に被害が生じないようにすること。
- ⑧ 水産動植物の被害が発生し、かつその被害が著しいものとならないようにすること。
- ⑨ 農薬保管・使用にあたっては、飛散・流出・揮散しないようにしてください。
- ⑩ 農薬は鍵のかかるところで、食品等の他のものと区別して保管してください。
- ⑪ 毒物劇物を扱う方は、毒物及び劇物取締法の規定を遵守してください。